

小学5年生

文章読解に



別冊

解答書

- ・（ ）は、答えにあってもよいものです。
- ・〈 〉は、別の答え方です。
- ・例は、答えの例を示しています。
- ・答えといっしょに、解説も読みましょう。
- ・答えに文字数などの指定がない場合、習っていない漢字は、ひらがなで書いていても正解です。

- 1 何のために勉強
- 2 勉強してみない
- 3 「なるほど」と思っていた
- 4 ア
- 5 あとからわかってくる・教師

! 解説

① 文章の最初で筆者が「皆さんは、ありますか？」と問いかけていることに注意しましょう。

② 先生は「数学を勉強する目的かあ。わからないのじゃ」と言っています。

③ 先生の答えについて、「明らかにごまかし」だとも述べられていますが、「当時の僕」は「それを聞いて『なるほど』と思っていた」とあります。

④ 「人間には、さやっとわかるという面があります。」とあります。

⑤ 文章の最初で、「皆さんは、何のために勉強しているのか考えたことがありますか？」とあり、筆者は自分の経験をふまえてそのことについて述べています。「勉強することの意味」という言葉がくり返し出てくることに注目しましょう。その意味については、最後の段落でまとめられています。

- 1 スポーツができる人
- 2 A オ B イ
- 3 勉強・脳
- 4 イ
- 5 ベストパフォーマンス・必死・役立つ

! 解説

① ③の段落で、「サッカー」を例にして説明していることから考えましょう。

② Aについて、前の段落では「スポーツができる人」と「勉強ができる人」は「別だというイメージ」だとありますが、直後では、スポーツにも「全脳」が使われるという逆の内容が述べられているので、「しかし」が入ります。Bについて、前の段落の例が直後から述べられているので、「例えば」が入ります。

③ 直前の「スポーツも、できないものなのです。」という内容を受けています。

④ 直前で、読書が好きな人はスポーツ選手のような「意思決定能力」を参考にするとよいとあるので、「スポーツ選手」にはそれとは反対の「読書で教養を身につける」ことが役立つと分かります。

⑤ ⑥の段落で、「誰かが自分にも役立つ。」とあることに注目します。

1 絵画の見方

2 純粋・優しい心

3 A イ B エ

4 ウ

5 例 同じ絵画でも違って見えてくるものだという事。

! 解説

1 第一段落に注目しましょう。

2 直後の段落から読み取りましょう。

3 A 直前の、作品に描かれたものには意味があるという内容を、後で具体的な例を挙げて説明しているので、「たとえば」が入ります。

B 前の段落の他に、絵画の見方が変わる具体例を挙げているので、「また」が入ります。

4 患者と暗い絵の作者に共通する点があるということが説明されています。

5 「生きもの」という表現は、ここでは、変化するものという意味で使われています。「自分」や「環境」といったものが変わると、同じ絵画が違って見えてくるということを説明しています。

1 例 日本語の言語体系について

2 例 日本語以外の言語が通用する地域というのは、まずありません。

3 A エ B オ

4 かな・漢字・読む・話す ※「かな」と「漢字」、「読む」と「話す」は順序がちがっても正解。

5 イ

6 例 インターネットは、情報が交流するものだから、「情報交流」と翻訳する。

! 解説

1 第一段落に注目しましょう。

2 直後の段落で、日本について述べられています。

3 A 前の「日本以外の世界」の例として、直後から「アメリカ」について述べられているので、「たとえば」が入ります。

4 日本語は「かな」と「漢字」を二つ使うので、「バイリンガル」だと言っています。

5 流入してきた西洋文明を、漢字を使って日本語に取り入れたことを指しています。

6 言葉の内容や印象から、漢字を使った言葉に直してみましょう。

1

A エ B イ C ア

2

A という選択肢

3

自分の調子を測るバロメーター

4

記憶ができてきているか・(パット)新しい手がひらめくか・絶対の自信

! 解説

1

A 第一・二段落の、長く考えればいい手が指せるとは限らないという内容について、直後から例を挙げて説明しているため、「たとえば」が入ります。

B AとBの選択肢のどちらかという意味なので、「あるいは」が入ります。

C 直前の、二つの選択肢で迷っているだけで時間が過ぎるという内容を、直後で、「考えているより迷っている」と言いかえてるので、「つまり」が入ります。

2

「Aという選択肢」を「選択肢B」に変えたら、ということを書いています。

4

「そうではなく」は、直前の段落の「たくさん〜ことではない」を指し、「見切る」は、最後の段落で「見切る」とは〜と説明されている部分から読み取ります。

1

イ

2

A ウ B ア

3

例 何もない道へ長い道・金閣寺の要素

4

ウ

例 金閣寺の裏になぜ一見無駄とも思える長い道があるのかなどについて考えるということ。

! 解説

1

直前の「音楽」を例にした説明を指しています。

2

A 前の段落の内容に、別の内容を付け加えているので、「しかも」が入ります。

B 前の段落の内容とは反対の内容を後で述べているので、「しかし」が入ります。

3

前に「金閣寺を見た後に、長い道が続く」が、それが「罰ゲーム」でも「無駄な回り道」でもないのは、それらが「金閣寺の要素を構成しているもの」だからだと述べています。

4

前の段落から「芸術」「エンターテインメント」の意味、後の内容から金閣寺がそのどちらに(あるいはどちらにも)あたるのかを読み取ります。

5

直後にある「芸術との出会い」の内容をまとめます。

1 メソポタミア文明

2 A オ B イ

3 おカネやコトバが存在する前の社会

4 イ

5 例贈り物とその返礼でモノを交換する社会は、美しいが、お互いに監視し合うのできゆうくつだということ。



解説

2

A 直前の段落は「コトバの出現」についての説明、直後からが「おカネやコトバが存在する前の社会」についての説明になっているので、話題が変わることを示す「それでは」が入ります。

B 直前の、返礼するには贈り主を覚えておく必要があるという内容が理由となり、「お互いの顔を知らない」と成り立たないというところが後に続くので、「だから」が入ります。

4

「そのような古い時代の伝統」は、前の段落の「伝統的社会における交換は贈り物とその返礼という形で行われていました」という内容を受けています。

5

「そのような共同体」は「おカネやコトバが存在する前の社会」の共同体のこと。「不自由」の内容は、直後で「お互いが常に監視し合い、掎に外れると村八分にあう」と説明されています。

1 ベランダ・北斗・父さん・話

2 例冒険の(旅の)許可

3 イ

4 春休み・冒険の旅・準備



解説

1

文章の初めの部分に注目しましょう。「夜のベランダで、北斗は父さんに答えた」「話を聞かれる心配はない」とあることから考えましょう。

2

北斗の言葉に注目しましょう。「クリスマスには、その許可が欲しい」と言っています。「その」は、さらにその前の言葉の「冒険がしたいんだ」の「冒険」を指しています。

3

②——の前に注目して「北斗の不満」を読み取りましょう。放課後や休みの日に乗るくらいでは、誕生日に買ってもらったサイクルコンピューターに大した走行距離を表示できず、活用しきれないことが不満なのです。

4

「今年のクリスマスは、」に続く部分をよく読んで、北斗が、いつ、何をしようと計画していて、そのために、「今年のクリスマス」にはどんなことをしようとしているのかをしっかりと読み取りましょう。

1 勝負・魅力・人気者

2 例「太二くんのおねえちゃん」と言われるようになったこと。

3 休み時間くってきた

4 ア

5 イ

！解説

1 テニススクールにはいつてきた太二について説明している、はじめの二つのまとまりから読み取りましょう。

2 「くにより悔しかった。」とある文に注目しましょう。

5 「弓子が中学受験をしようと考えたのは、」で始まる最後のまとまりに注目しましょう。弓子は弟の太二にコンプレックスを持っていて、そのため、太二が絶対に来られない中高一貫の女子高で学校生活を送りたいと思っているのです。

1 一つウ どこお寺の境内

2 「ぼく」へ健太・じっちゃんや先生・お坊さん

※順序がちがっても正解。

3 ア・エ

4 例犬がおくってきた生活を考え、かわいそうに思う気持ち。

5 例しあわせの花はとても大切だが、それをほしがるものがあるなら、あげてもいいと思う気持ち。

！解説

1 初めの部分に注目しましょう。「夕焼けの時間」とあるので、時刻は夕方だということが分かります。

3 イ「堂々としていて、強そうだ」、ウ「母犬で、おなが大きい」は、「ぼく」が夢に見た犬の様子です。

4 ③の前に、「おまえも、また、かわいそうなやつなんだ」「これまでどんな生活をおくってきたか、よくあらわしていた」とあるので、犬のおくってきたつらい生活を考え、かわいそうに思っていることが読み取れます。

5 最後のまとまりから読み取りましょう。「しあわせの花」を「とてもとても大切」と思いながらも、「それ（＝しあわせの花）」をどうしてもほしがるものがあるなら、あげてもいい」と思っています。

① 偏差値がすごく下がっていた

② ウ

③ 外はいつのまにか霧みたいな雨がふっていた。

④ イ

！解説

① —の後に注目しましょう。次のまとまりの「信じられなかった」のあとに、「偏差値がすごく下がっていた」とあります。聡子は、偏差値がすごく下がっていたのが信じられず、自分の目をうたがったのです。

② —の「いつものように」、「いつもの仲間と」に注目しましょう。

聡子が模擬テストの結果にショックを受けている様子には気づかず、みんながいつもどおりに行動していることが分かります。

③ 聡子の落ちこんだ気持ちと重なる情景びよう写をさがしましょう。「外はいつのまにか霧みたいな雨がふっていた」という情景に、聡子のしょんぼりした気持ちが重ね合わされています。

④ —の前の聡子の様子に注目しましょう。「まだまだあきらめないんだから、とは思えなかった」「すっかり、力がぬけてしまった」「おもわず涙がこぼれた」などの様子から、Bクラスになったことが悲しくて、やる気を失っている気持ちが分かります。

① イ

② 思い切り自由に走ってもらう

③ ・ぎりぎりまで引いた弓がいつきに矢を放ったみたいだった。

④ 。

・まるでダンスだ。※順序がちがっても正解。

例 一周目で吉平が通ったラインの上を全速力で走る。

⑤ ア

！解説

① 「もしキャプテンとして悔いは残らない。」から、自分をキャプテンにしてくれた吉平と晴美のために、颯太がキャプテンとしてできることをしたいと思っていることが分かります。

④ 最後から二番目のまとまりに、「そのラインの上を、全速力で走るつもりだった」とあるのに注目しましょう。「そのライン」とは、前の文に書かれている、一周目で颯太が覚えていた、吉平が通ったラインのことです。

⑤ ④ —の前の颯太の心の中の言葉から考えましょう。「失敗してパニックしたら、それで終わり」「後悔はしない」「もうなにもこわくない」などの言葉から、颯太が失敗しても後悔しないと覚悟して走ったことが分かります。

① 例 椿の花を切って、持ってきてほしい

② 目を覚まさない

③ 例 椿は、首から落ちるので、お見舞いには向かない
ということ。

④ 頭上に広ぐだった。

⑤ 命・例 おじいちゃんに、目を覚ましてほしい

！ 解説

① 前後のお母さんの言葉から読み取りましょう。「椿の花、持ってきてくれない?」「ひとつでいいから、切ってきてよ」と言っています。

② 前の「私」の心の中の言葉に注目しましょう。おじいちゃんに対するお母さんの口ぶりを、「まるで、目を覚まさない白雪姫を試すみたい」と感じ、おじいちゃんが目を覚まさないかもしれないと思って動揺したのです。

⑤ 「私」は、椿の花が落ちることにおじいちゃんの死を重ねています。そのため、「花の落ちそうにない」ものを選び、「守りながら歩いていった」のです。この行動に、おじいちゃんの命を守ろうとし、おじいちゃんに目を覚ましてほしいと願う「私」の気持ち表れています。「おじいちゃんに生きていてほしい」ということがわかる内容であれば正解です。

① 例 朝からずっと釣れなかったのだから、釣れるはずがないと思う気持ち。

② イ

③ 投げ入れて

④ ア

⑤ 例 立て続けに魚を釣り上げるのははじめてなので、とてもうれしく、興奮する気持ち。

！ 解説

① 直後の「ぼく」の心の中の言葉から考えましょう。

③ 「それどころ」の「それ」とは、「ぼく」が正人に、魚くらいさわれるとおうとしたことを指しています。「それどころではなくなった」理由は、③の直後の文から読み取りましょう。

④ 前の「もう一回今のく多かやけんな。」という英治の言葉と、④の直後の「次に姿をあらわしたのも茶褐色のアイナメ」から考えましょう。

⑤ ⑤のあとの、「ひとり興奮し」「はしゃぐ」「ぼく」の様子、また「そんなうれしかとか?」と聞かれて、素直にみとめている行動などから、うれしく、興奮する気持ちが読み取れます。「立て続けに魚を釣り上げるなんて、ぼくにとってははじめてのことだった」という出来事を理由として入れてまとめましょう。

⑤

② 日がよく照る開けた場所

③

ウ

④

B 開けた場所

C 林の中

⑤

ウ

! 解説

① ⑤の段落で、東京について、「高い建物のようになったのではないかと、筆者が自分の考えを示しています。」

② 「そのように」は「彼ら(＝モンシロチョウ)」が「日がよく照る開けた場所」を好むことを指します。

③ 直後で「モンシロチョウ」「スジグロシロチョウ」についてまとめているので、「つまり」が入ります。

④ Bにはモンシロチョウ、Cにはスジグロシロチョウの住む場所が入ります。

⑤ 直前の「これらのこと」は、東京に日かげとムラサキハナナが増えたことを指しています。これらのことが原因で、東京はスジグロシロチョウにとって住みやすく、モンシロチョウには住みにくくなったと筆者は考えています。

① 例読書体験の未来について。

②

A イ B エ

③

電子書籍・紙の本・読書の未来形・何が足りない

④

イ

⑤

イ・ウ

! 解説

① 「紙の本」「電子書籍」が出てくることから考えましょう。

② A 前の段落の、ニュースを伝えることについてはネットがすぐれているという内容に対して、直後では、ニュースや情報を得ることを目的としない読書体験について述べているので、「でも」が入ります。

B 前の内容に対して、後の内容を付け加えているので、「そして」が入ります。

③ 直前の段落から読み取りましょう。

④ 第一段落に、「ニュースを伝える、ということ」については、ネットと比べたとき、「活字媒体が勝負にならない」とあります。

⑤ 事実と意見を読み分けましょう。筆者は、第四段落以降で、紙の本と電子書籍を比べてちがう点について、意見を述べています。

③～⑤

1 天気・変化・気分

② 例 「このころ」は、「地層」のようにものすごく長い時間をかけて堆積した安定したものだから。

④ A イ B オ

⑤ (1) 例 「自分が今」という宿題

〈自分が今まゝてください〉

(2) つながって・出会い・今の自分・歴史

(3) ア

⑥ 暗い時代

⑦ 例 三年生のとき、サッカーチームのコーチに努力をみとめてもらって、レギュラーになれたことが、とてもうれしかった。

! 解説

③の段落で「私は先日、」とあるので、筆者の体験が述べられていることが分かります。その体験の例をふまえて、⑥の段落から、再び「地層」としての「このころ」の話にもどっています。

② 直前で、「天気」によって「気分」が変わることが述べられ、「気分は毎日変化します」とあります。

③

直前で、「地層」は「ものすごく長く時間をかけて堆積した安定したもの」だとあります。また、④の段落の「自分が他の人とながつながっていて、その人たちとの出会いで今の自分ができているという歴史を感じる」、⑥の段落の「今の自分の『このころ』も地層のようにきちんと安定した基礎の上に成り立っていると確信」できる、という内容にも注目しましょう。

④

A 直前の段落で「宿題」を出したことが述べられ、その結果が直後で述べられているので、「すると」が入ります。

B 直前の段落で述べられた「自分の地層図」の例が直後から述べられているので、「たとえば」が入ります。

⑤

(1) 直前の段落に、「自分が今まで出会った人の中で、今の自分があるのはこの人のおかげだ、という人たちの思い出して、その人たちとのエピソードを書いてください」という宿題」と述べられています。

(2) 直後に「それはなぜかというところからだと思います。」とあることに注目しましょう。

(3) 直後の段落の「私の例でいうと」以下の内容を読み取りましょう。

⑥

すぐ前にある「暗い時代」を受けています。

⑦

⑤の段落で筆者は、小学校時代の先生のエピソードを挙げています。参考にしてあなたの経験を書きましょう。

① 地味

② A ウ B エ

③ 洋室・フローリング・ベッド・花や可愛らしい小物

④ イ

⑤ 例 実家にあった学習机よりも勉強がはかどること。

⑥ ア

⑦ (1) 姉

⑧ (2) ウ

⑨ ア

例 イメージにとらわれることなく、「身体を感じる心地よさ」を重視することによって、和室への愛着が深まるということ。

！ 解説

① 第三段落に「妹はしぶしぶ畳の部屋で地味な東京暮らしをスタートさせることとなった」とあります。

② A 直前に、姉と洋室をうばい合ったことが述べられ、直後に「年長者(＝姉)」に洋室をうばわれたことが書かれているので、「しかし」が入ります。

B 直前では卓袱台を使うと勉強がはかどることが述べられ、直

後では勉強に疲れたら寝つ転がれることが付け加えられているので、「しかも」が入ります。

③ 直前の段落の内容から読み取りましょう。

④ 直前に、蘭草の香りや、畳の暖かさから故郷を感じたということが述べられています。

⑥ 直前の段落では、卓袱台のある部屋の暮らしの快適さが述べられ、直後で卓袱台を炬燵につくりかえて「日本の冬の暖かい風景」ができたということが述べられています。

⑦ (1) 第二段落で、女子学生は姉と二人暮らしを始め、そこには二部屋あったことが説明されています。

(2) 直前に、女子学生の部屋は、炬燵のある「日本の冬の暖かい風景」になったということが述べられています。

⑧ 第一段落や最後から二つ目の段落で、女子学生が実際に住んでみて和室のイメージが覆されたということが述べられています。

⑨ 女子学生の経験をふまえて、筆者は、最後の段落で、「身体を感じる心地よさ」を選択肢の中心にもつてくると、さらにひと味、和室への愛着も深まっていく」と述べています。

- 1 調べていない・わからない・明らか
- 2 知られている・だれも知らない
- 3 イ
- 4 ア
- 5 **例** 苦勞・身についてた

！
解説

- 1 ①の段落に注目しましょう。
- 2 「それ」は、直前の内容を指しています。
- 3 ④の段落で「ぼく自身は『だれも知らないこと』がなんなのかがわかっていませんでした。だから、ほんとうに研究ができたといえませんが」とあります。③の段落はその体験を述べたものです。
- 4 ④の段落の、新しいことを見つけたと思っても、だれかがやってたことだったという内容を受けて、⑤の段落では、だれかがやったということを知っていれば、もう一度試してみることに意味があるとして、⑥の段落の、知らずにやっても意味がない、という内容につながっています。
- 5 ⑦の段落に『だれも知らないこと』を見つけるために苦勞して、身についたことがあります。自分で新しいやりかたを考え、道具をつくり、ほかの人には見えないことを見えるようにするくふうです」とあります。

- 1 オ
- 2 言葉のすべて
- 3 ア
- 4 **例** 名詞が先に記憶に残り、あとで差異を理解するという経験。
- 5 独自の経験・イメージの上
- 6 イ

！
解説

- 1 〇の後では、直前の内容とは反対の内容を述べているので、「しかし」が入ります。
- 2 直後の一文の文末に「くからです」とあることに注目しましょう。
- 3 ③の段落に、「モンシロチョウ」を例に挙げて、言葉の学び方が説明されています。
- 4 直後にどのような経験かが説明されています。
- 5 直後で、図鑑やネットで調べると「独自の経験」から想像をふくらませ、「イメージの上での差違と名詞を結び付ける」と述べられています。
- 6 ③〜⑥の段落では、「モンシロチョウ」という言葉の学び方の例が挙げられています。

① 元の個体をコピーしていくことへすべての個体が同じ性質である

② A イ B エ C オ

③ 例 環境が変化したとき、どれかが生き残るかも知れないから。

④ イ

⑤ 例 生命は、性質の異なる個体を作って生き残るために、遺伝子のコピーであえてエラーを起こしたり、他の個体と遺伝子を交換したりしている。



解説

② A 直前の段落では同じ性質だと全滅してしまうことが述べられ、

直後ではさまざまな性質なら生き残ることができるということが述べられていくので、「一方」が入ります。

③ 直前の段落の内容をまとめます。

④ ⑤ ⑥の段落以降、自分と異なる性質の個体を増やす方法が述べられています。⑥⑦の段落では遺伝子のコピーの際にあえてエラーを起こすという方法、⑩⑪の段落ではさらに大きく異なる性質の個体を作るために、他の個体と遺伝子を交換するという方法が説明されています。二つの方法が書いていたら正解。

① 二人三脚・ペア

② 例 「ぼく」たちは、いちばんの友達同士で、リズムが合ったから。

③ イ

④ ウ



解説

① 「さっそくペア決めることになった」とあることから、二人三脚のペアを決める場面であることが分かります。

② —の直後の二つの文から読み取りましょう。

③ —の前の二人の会話文に、気持ちが表示されています。

④ —の前から、「ぼく」が、光太に、転校するときいたことが分かります。それによって変化した心情を読み取りましょう。「頭の中が白くなった」「なみだがせりあがってきて」などの表現から、ショックを受け、悲しみがこみ上げていることが分かります。

1 対等に勝負が出来そう

2 少しだけ高い・間に合う

3 イ

4 例 少年が遠くから、一人で自転車で乗ってやって来たから。

5 (順に) イ・エ・ア



解説

1 ① —の前の部分から読み取りましょう。

2 ニつの独楽については、「やっと一つ選ぶ」で始まる二つのまともで説明されています。□の前後の言葉に注目して、当てはまる言葉をさがしましょう。

3 少年は、大沼の、「お内儀さんは、頼むとまけてくれる」という言葉を思い出したのですが、どう切り出したらいいのか分からないのです。

5 出来事と少年の気持ちを追っていきます。少年は、独楽を選びながら期待で胸を躍らせ、二つの独楽のどちらにしようか迷います。お内儀さんにまけてほしいといえずにとまどっています。あげてあげるといわれ喜びがあふれてきます。

1 一時間目・休み時間

2 例 友だちになれそうだ。

3 ア

4 例 川田垂矢は、けっこういいやつなのかもしれないということ。

5 例 最初は友だちになれないと思っていたが、最後は友だちになろうと思うようになった。



解説

1 文章の初めに「一時間目の終わりのチャイムが鳴った」とあり、そのあとの川田垂矢の言葉に「休み時間だし」とあるので、「一時間目」と「休み時間」を書きぬきます。

2 川田垂矢は、「わたし」に、「あたしたち、すぐく友だちになれそうなのがする」と言っています。

3 ② —の直前の川田垂矢の言葉を聞いて、「わたし」は思わず顔をあげています。その言葉は、その前で「わたし」が小学校のトイレに対して思っていた内容と同じなので、それに気づいた「わたし」は思わず顔をあげたと考えられます。

5 最初は川田垂矢とは友だちになれそうもないと思っていた「わたし」ですが、トイレに関する話を聞いたことで見る目が変わり、「友だちになろう」と思うようになったのです。

1
イ

② 例 うるさい川端のじいさんがよろこんだと聞いたから。

・ 例 剛がみんなの前で長くしゃべったから。

※ 順序がちがっても正解。

3
ウ 気おくれ・大好き・がんばろうへがんばれる4
ウ

! 解説

① 文章の初めの剛の心の中の言葉に注目しましょう。意見を一回もいったことがないので、あずりか一郎がいえばいいと思っています。

② 「目を丸くする」とは、おどろいて目を見開く様子です。②——の直後の文の「くにおどろいたのはもちろんのこと、くにもおどろいていた。」から、目を丸くした理由を二つ読み取りましょう。

③ ——のあとのまとまりの「みんなの中心になるなんて気おくれするけれど、く心に決めたのだった。」に注目しましょう。

④ この文章の中で、主人公の剛は、はじめはみんなの前で意見をいうのもいやでしたが、先生からリーダーに任命されて、「せいっぱいがんばろう」と考えています。この変化が中心にえがかれているといえます。

1
イ

① 例 岳は大きくなったら何になりたいかと思っているのかということ。

② 例 魚釣りが好きだから、魚を釣る仕事がしたいという岳の返事のこと。

④ 一泊二日ぐらいの釣りに出かける

3
ウ5
イ

! 解説

① 「そんなこと」は、①——の前の「私」が岳に言った言葉の内容を指しています。

② 「その返事」の前の岳の言葉から読み取りましょう。

③ 「私」は、岳が今思っていることを素直に言っている様子から、このように感じたのです。

④ 「私」が、旅の予定を思い起こしている様子は、最後のまとまりに書かれています。

⑤ 「私」は、岳とのやり取りから、息子を「いい少年だ」と感じ、岳が変わっていくことを受け止めながらも、これからも岳と釣りに出かけようと考えています。このような「私」の様子や考えから、この文章では、息子を温かく見守ろうとする父のすがたがえがかれているとわかります。

① ハクレン

② ウ

③ 例木の香りが散らないようにする

④ イ

⑤ ハクレンの寿命がきなりの中にしみこんでいく

⑥ イ・エ

⑦ 例枯れてしまったハクレンが渡そうとした寿命を、受け取ろうとする思い。

! 解説

① おじいちゃんは、①——の前のきなりの、「今年もハクレンは見事にさいたん？」という言葉を受けて、「あれがすぎだったのか？」と聞いています。

② ——の前の部分に注目します。おじいちゃんの家では、「ふろの当番」や「食後の後かたづけ」「そうじ」などをせずに「ねころがって」、おじいちゃんがふろの準備をしてくれるのを「ただ待っていたらいい」だけなので、「笑いがこみあげてくる」のです。

③ ——のあとに、「窓からのやわらかい光の中でなら、香りが散らないかもしれないと思った」とあるので、きなりは、ふろの木の香りを散らさないために、③——のようにしたとわかります。

④ ——の次のおじいちゃんの言葉に注目しましょう。「木がすっかり弱って、今年は花も葉もつけないまま枯れだした」と言っています。

④ ——の後で、おじいちゃんが、ハクレンを燃やすことになったいきさつを語り、「ゆっくりはいったらいい。ハクレンの寿命がきなりの中にしみこんでいくようにな」と言っています。

⑤ ——に続く部分から読み取りましょう。「きてから裏庭にもいかず、さつき、窓からのぞくこともしなかった」から、きなりがハクレンの木を見ようとしていなかったことがわかります。また、「もつと木のことを気にかけていたら、西側の窓にアルプスが見えただけでおかしいと思っただろうに。夏、窓はハクレンの葉でふさがれているはずだった」から、ハクレンの葉が見えないことに気がなかつたことがわかります。

⑦ ——きなりがハクレンに呼びかけている心の中の言葉に注目して、きなりの思いをとらえましょう。「あたしにあんたの寿命を渡したかったん?」「ぎゅっと抱きしめて、あんたの寿命が伝わるようになるから」などの言葉から、ハクレンの寿命をしっかりと受け取ろうとする思いが読み取れます。

1

ア 回数券を使わずにすむ

2

イ 例今日は財布を持って来ていないので、回数券を使わなければ、家に帰れないから。

3

ウ 母の退院の日が遠ざかってしまう

4

例母が早く退院できることを願って、回数券を買い、少年のすがた。

! 解説

1

① には、少年が母のお見舞いに行くようになった最初の頃といまの、辺りの様子の変化が説明されています。最初の頃に比べて日が短くなっている様子から、母が入院してから時がたつていくことが分かります。

2

② 次の文に注目しましょう。父に迎えに来てくれるようにねだるようになった理由について、「会社帰りに病院に寄ってもらって一緒に帰れば、回数券を使わずにすむ」と書かれています。

3

③ 後の部分に注目しましょう。「あとは表紙を兼ねた十一枚目の券だけだ」「明日からはお小遣いでバスに乗ることにした」と

あるので、最後の一枚は使わずに、お小遣いでバスに乗ろうとしていることが分かります。

4

少年が泣きだしそうになった理由は、④——に続く二つの文に書かれています。「家に帰るのに、回数券を使わなければならないから」という内容が書いていけば正解です。

5

回数券を使わなくてはならなくなり、泣きだしそうになった少年は、母の前では涙をこらえて、バスに乗りますが、バスの中で「悲しみが胸に込み上げて」きて、⑤——の後に「うずくまるような格好で泣いた」とあります。したがって、⑤——は、涙があふれてきて月がにじみ、揺れはじめたと読み取れます。

6

少年が、運転手の河野さんに、回数券を使いたくないことを説明している最後のまどまりから読み取りましょう。少年は、「新しい回数券を買おうと、そのぶん、母の退院の日が遠ざかってしまう」と考えています。

7

少年の様子や行動から考えを読み取り、それを通してえがかれている少年のすがたをとらえましょう。少年の、新しいバスの回数券を買わないという行動は、母の退院の日がのびてほしくないという考えによるものです。この内容を、「退院」「回数券」という言葉を使ってまとめましょう。

1 クジラ・イルカ・違う

※「クジラ」と「イルカ」は順序がちがっても正解。

2 例体長が四メートルより小さいクジラをイルカと呼ぶという決まり。

3 ①七メートルにもなる

②四メートルにもならない

4 2・3・4・8



解説

1 ①の段落で、「クジラもイルカも海にすむ野生動物です。何が違うのでしょうか?」と二文で問いかけています。クジラとイルカの違いが、この文章の話題です。

2 「そんな」とあるので、前の文章から答えを探します。問いに合った文末になるように気をつけましょう。

3 ささまざまな体長の動物がクジラと呼ばれている例を挙げることで、クジラとイルカの分け方があいまいであることを説明しています。

4 ②・③の段落では、クジラとイルカの違いについての問いに答えています。この答えについて、具体例を挙げながらくわしく説明しているのが、④⑧の段落です。そして、⑨の段落では、最後にもう一度、問いの答えを述べて、まとめとしています。

1 芸術作品・見る目を育てる

2 自然の美しさ・人のつくったもの

3 充実感

4 ① ア ② イ ③ イ ④ イ ⑤ ウ



解説

1 ①の段落で、「芸術作品を「見る目を育てる」ことについて問いかけています。「なぜなのでしょう」という文に注目しましょう。

2 ②の段落では「自然の美しさ」について、④の段落では「人のつくったもの」についての例を挙げています。

3 筆者が、生きていることの充実感についてくり返し述べていることに注目しましょう。

4 ①の段落では、「なぜなのでしょう」と読者に問いかけています。②④の段落では、自然のものと人のつくったものについて、具体例を挙げながら説明しています。そして、⑤の段落では、鑑賞することを「生きているという充実感」に結び付けて筆者の考えをまとめています。

1 一部・もらえなかった

3 1 ア 2 イ 3 イ 4 ウ 5 ウ

2 おたがいさま

4 **例** わたしたちの社会では、生活においてさまざまな差があるが、このようなルールで生活していれば全員が平等に食べ物を手に入れられるので、よいルールだと感じる。



解説

1 猟に出た人の一部が肉をもらえる第一次分配と、第一次分配で肉をもらえなかった人が肉をもらう第二次分配について説明しています。

2 ⑤の段落では、肉の分配が「当たり前」であることを説明しています。段落の最後で、その理由を、「おたがいさま」という言葉でまとめています。

3 ①の段落では、ピグミーたちの食物の分かち合いを話題にすることを示しています。②・③の段落では、具体的な分配の方法について説明しています。④・⑤の段落では、食物の分かち合いから見えてくるピグミーたちの考え方や、筆者が気づいたことを述べています。

4 ピグミーたちのルールと、わたしたちの社会のちがいを考えてみましょう。そのちがいに對して、自分の考えを組み立てます。

1 現金を使わずに

3 ① 前ばらい ② 後ばらい ③ 電子マネー

2 前ばらい

4 自分がはらえる金額

5 イ



解説

1 【文章】の第一段落で、キャッシュレスについて、「お札や硬貨などの現金を使わずにお金のやり取りをすること」と説明されています。

2 【文章】の第三〜第五段落の内容を整理します。キャッシュレスの種類について、例を挙げながら説明しています。

3 「必要な金額をあらかじめチャージする」と同じ内容を説明している部分を、「【文章】からさがしましょう。」

4 クレジットカードは、「後ばらい」で支払いをします。「後ばらい」について、「【文章】では「自分がはらえる金額よりも使いすぎる」とがないように注意する」と説明されています。

5 【文章】の第八段落でイの内容を主張しています。アについては、「【文章】の第三段落で「電子マネーは、小学生でも利用することができ」と説明されています。ウは「前ばらい」の説明です。

33

論理的な文章

複数の文章の
読み取り

練習

72・73 ページ

① 考えない・危なっかしい

② 例) ちゃんと学んだうえで自分の頭で考えれば、問題を解決する力になるということ。

③ 学ぶ

④ ひとりよがり

⑤ イ

! 解説

① 【文章2】の①の段落で、【文章1】の内容が説明されています。

② ③の段落初めの指示語「これ」は、②の段落で述べた内容を指しています。そのため、「両方の手がガシツと組み合わさる」は、②の段落の内容を言いかえた言葉であることが分かります。

③ 直前の言葉に注目します。「自分流で泳いでいても上達しない」は、自分の頭で「考える」だけではうまくいかないことの例です。「速い人の動きをよく見たり、コーチの言うことを聞いて」は、「考える」例と対になっているので、「学ぶ」ことの例です。

④ ⑤の段落は、④の段落の内容にさらに説明を加えています。「自分勝手なやり方ばかりで練習している」ことは、【文章1】の「考えていても学ばな」いことの例です。

⑤ 「学ぶ」「ことと」「考える」ことの大切さについて述べているため、イが当てはまります。

34

論理的な文章

複数の文章の
読み取り

練習

74・75 ページ

① 順位・タイム

② よいハンカチを特に安く売る・人目をひかないウ

④ 発信・受け取り方

! 解説

① 「あなた」と「先生」の発言に注目しましょう。

② 【文章2】の最後の段落に、「どうしてこんなことが起きたのでしょうか」とあります。「こんなこと」は、「同じ商品のハンカチですが、売れゆきにちがいがあつた」ことを指しているため、最後の段落から答えをさがします。

③ 【文章1】【文章2】ともに「事実」という言葉が使われていることに注目します。いずれの文章も、事実の伝わり方について述べています。

④ 【文章1】【文章2】ともに、最後の段落からぬき出します。【文章1】では情報の伝え方、【文章2】では事実の受け取り方について述べています。

① 食料

② 工業 ③ つくりだす

④ 商業 ⑤ 売り買い

② ① 食品製造業 ② 原料

③ 外食産業

④ 食品流通業 ⑤ 保管

③ 食品産業

④ ③ ② ①
【例】わたしたちの生活は、さまざまな仕事が進み合わされて成り立っているということ。！
解説

① 【文章1】では、段落ごとに「第一次産業」、「第二次産業」、「第三次産業」について説明されています。第二段落では、農業や漁業など「食料を生み出す仕事」が「第一次産業」とよばれていると述べられています。第三段落では、「ものをつくりだす工業」が「第二次産業」とよばれていると述べられています。第四段落では、「第三次産業」について、「商業」や「ものの売り買い」であると述べられています。それぞれの段落と表を見比べながら、当てはまる言葉をさがしましょう。

② 【文章2】では、食品に関わる仕事について説明しています。第二段落では、パンを例に挙げながら「食品製造業」について説明さ

れています。「食品製造業」には、「一次加工」「二次加工」「三次加工」があり、それぞれがどのような仕事であるかが説明されています。第三段落では、「わたしたちが外で食事するお店」をまとめて「外食産業」と呼ぶことが説明されています。「外食産業」は、「食品製造業」の面と「サービス業」の面をもってると述べられています。第四段落では、「わすれてはならない」仕事として、「食品流通業」が挙げられています。「流通業」について、「品物を別の場所に運んだり、一時的に保管したりする仕事」と説明されています。

③ 【文章2】は、食品に関わるさまざまな仕事について説明した後、最後の段落でまとめる構成になっています。最後の段落で、それまで説明してきた三つの仕事を合わせて「食品産業」と呼ぶと述べられています。

④ 【文章1】と【文章2】の構成のちがいに注目しましょう。【文章1】では、最初に「みなさんの生きている社会は、じつにたくさん仕事でなりたっています」と述べられ、その後で具体的な仕事について説明されています。【文章2】では、食品に関わる仕事について具体的に説明した後で、「三種類の食品産業が複雑に組み合わさって活動することで、わたしたちの毎日の食生活が成り立っている」と述べられています。【文章1】では最初の段落、【文章2】では最後の段落が、筆者が伝えたいことの中核です。二つの主張は、わたしたちの生活がさまざまな仕事が進み合わされて成り立っているという点で共通しています。

1

イ

2

病気やけがで牛が苦しんだり、命を落したり

3

どんなふうにも「肉」にならないうか・気がつかなくな

4

例わたしたちは、植物や動物の命を奪うことで生きて

5

例自分の命が、植物や動物の命を食べることで支え



解説

1

の前では牛が「こわがり」であることについて述べられており、後では牛が「足元にとても気をつけて」いることが述べられています。前に述べた内容に付け加えているので、イの「また」が正解です。「しかし」は前の内容と反対のことを述べるときに使い、「だから」は前の内容が後で述べることの理由になっているときに使います。

2

「こんな」という言葉が指している内容を、前の部分からさがしましょう。前の段落で「くやしい気持ちでいっぱいになる」と述べられており、その理由は、「病気やけがで牛が苦しんだり、命を落としたりする」ことです。

3

直後の文から答えをさがします。「大学に入るまでスーパーで売ら

4

れている肉がどんなふうにも「肉」にならないうか考えてこなかったこと、そして、そのことを「考えるのを避けてきたのではなく、気がつかなかった」ことに対して、「恥ずかしい」と感じています。

5

【文章1】では、牛の性格や行動について述べられた後、「牛との別れ」について述べられています。最後から二番目の段落で、「わたしたちの命は、植物や動物を食べることで支えられています」とあり、牛を出荷するときの気持ちについて説明しています。【文章2】では、最初の段落で、「命が続いていくためには、他の命を取らなければいけない」と述べており、そのテーマにそった文章が続いていきます。【文章1】と【文章2】のどちらも、わたしたちは生きるために他の命を奪っているということを伝えている文章です。

4では、【文章1】【文章2】に共通するテーマを読み取りました。また、【文章1】の内容からは、わたしたちに食べられるための命を育て、送り出す立場の人がいることが分かります。【文章2】の筆者は、自分たちが他の命を奪って食べていることを「知っておくべき」と読者にうたったえています。【文章1】【文章2】から読み取れるこれらの内容をふまえて、あなたが考えたことが書いていれば正解です。

37

文学的文章

筆者の考え—随筆

基本

82・83ページ

④
③
②
①

イ
子どもがくつおとな
ウ
人柄とか教養の深さ・おなじ年代・わかってくる

! 解説

- ①——の前の部分の出来事に注目しましょう。筆者の母親が小学校の先生をしていたころの教え子が、六十数年筆者の母親の消息をたずねていたことが書かれています。筆者はこの出来事を受けて、先生と生徒の関係をすごいと感じています。
- ②「考えてみると、く学校の先生なんですね。」という文から読み取ります。
- ③——に続く二つの段落に注目しましょう。卒業後、学校時代のかかわりがうすくても、親切な先生もいれば、学校時代におもしろくても、よそよそしい先生もいることを、「不思議なもので」と言っています。
- ④——の直前の二つの文から、筆者の考えを読み取りましょう。

38

文学的文章

筆者の考え—随筆

練習

84・85ページ

④
③
②
①

イ
信じられないほどの読書家
例隣の家に負けたくない気持ち。
友情ということの意味・歴史・創作

! 解説

- ①「ヨ一君」について説明している、最初の段落から読み取りましょう。
- ②「ただ、僕は投げ出さなかった」の後に注目しましょう。「く考えに違いない」とある文で、考えが示されています。
- ③——の直後の文に、「隣家と仲良くなればなるほど、父の負けず嫌いはひどくなった」とあるので、父が隣家に負けたくない気持ちだったと読み取れます。
- ④——の後の部分に、「僕」の変化が書かれています。「友情ということの意味を真剣に考える」ようになり、ヘッセの「歴史と他の作品を学ぶ」ようになり、「五年生の冬には、僕は最初の詩(「自転車」)を、創作する」までになった、と書かれています。

1 山をあるくみるため

2 ウ

3 (1) ア

(2) 怒り・恐怖・愉快

※「怒り」と「恐怖」は順序がちがっても正解。

4 [例]ほほえましい気持ちになり、人間の心とは不思議なものだと感じる。

! 解説

1 ①—の直後の文に注目しましょう。「くため」という言葉を使って、「私」が裏の松山にかけていった理由が書かれています。

2 ②—の後の部分から、気持ちを表す言葉をさがしましょう。「誇らしい気持ち」「喜びを感じながら」という表現が見つかります。

3 (1) ③—の後に「くでしようか。」「たしかです。」などの文末表現を使って、鳥が「私」の頭をけたことについての「私」の考えが書かれています。

4 「あの時のことを、こうして、今、思いだしても、」に続く部分から、文章の出来事を思いだしたとき、「私」がどう感じるのかを読み取ります。

1 ア・ウ

2 白い本・軽い本 ※順序がちがっても正解。

3 蝶・水平線・砂丘

2 (1) ア

(2) 花園・祭・泉・らんぷ

※順序がちがっても正解。

3 ウ

! 解説

1 ① 一行目が「蝶よ 白い本」、二行目が「蝶よ 軽い本」なので、二行の言葉の組み立てが同じになっています。また、「蝶よ」「本」という同じ言葉をくり返しています。これらの工夫は、リズムを生み、印象を強める効果があります。

2 ひらひら飛ぶ蝶の様子を、本に見立てています。

3 おそらく海岸にいたりと思われる作者が見た、飛んでいく蝶の様子を、たとえや対句などの工夫を効果的に使って、えがいています。

2 ① 「明日」を、「まってる」と人に見立てて表現しています。

3 ② 「花園みたいに」「祭みたいに」「泉のように」「らんぷのように」という表現で、「明日」をさまざまなものにたとえています。

3 ③ 「明日」がみんなを待っていることがくり返し表現され、第三連では、明日起こることが期待をこめてえがかれています。詩全体を通して、明日を待ち遠しく思う気持ちが表現されています。

1

①

2

(1)

③

(2)

②

例 太陽の光・絵画・夏

2

①

②

③

④

季語

雪

季節

冬

桜

季節

春

③

菜の花・東・西・美しさ

! 解説

1

①

②は「秋来ぬ」とあるので、よんでいる季節は秋です。同じく秋がよまれているのは、「銀杏ちるなり」とある①です。

2

③において感じているのは、「昔の香」とある③です。音を聞き分けているのは、「風の音」とある②です。

3

④は、真夏の太陽の光を浴びて向日葵がゆらりと高くさき、その上に太陽が小さくかがやく様子をえがき、絵のような構図が印象的な歌になっています。

2

②

俳句には、ふつつ、「季語」という季節を表す言葉が一つ入っています。自然や動植物、行事などに関する言葉に注目しましょう。

3

②は、一面の菜の花畑で、東の空には月がのぼってきており、西の空には夕日がしずもうとしている、大きな景色の美しさをえがいた句です。

1

A

潮騒

B

菜の花

※順序がちがっても正解。

2

C

黄へ黄色へ

D

青い

3

ウ

4

F

蝶

G

蜂

5

例 蝶や蜂をバレリーナにたとえることで、のどかで楽しそうな春の岬の様子が伝わってくると思いました。

! 解説

1

人と同じにあつかわれてるものについて、「潮騒と菜の花が、友だちか恋人同士という美しいイメージで」と説明しています。

3

第三連の「春の岬のながめは／御馳走のうちのひとつだ」の意味を考えましょう。続く部分に「潮の風と花の匂いにつつまれて／いっそう心がふくらむ」とあるので、春の岬をながめているときは、御馳走を食べるときのように幸福な気分だと読み取れます。

4

詩の最終連から、バレリーナにたとえられているものを読み取りましょう。「バレリーナの蝶も縞模様蜂たちも」とあるので、Fには「蝶」、Gには「蜂」が入ります。

5

この詩では、潮騒や菜の花を人に見立てたり、黄色や青という色の表現を用いたり、蝶や蜂をバレリーナにたとえたりして、のどかで明るい春の岬と、そこに来ている作者の楽しく幸福な気分を表現しています。このことをふまえて、感想を書きましょう。

1

三
無限無期限く久命の長助

2

例頭をぶたれてコブができたことを、いつつけるため。

3

例長い名前を言っているうちに、時間がたつてコブがひっこんだから。

! 解説

1 文章に出てくるのは、「金ちゃん(金坊)」、「おばさん(この子の母親)」、「おばさん」が「お前さん」とよんでいる「この子」の父の三人です。

2

「お前のところの無限無期限く長久命の長助が、おいらの頭をぶつて」と言っているのが、「無限無期限く長久命の長助」が名前です。

3

「金ちゃん」の言葉の前の部分に注目しましょう。「近所の子ども(金ちゃん)がぶたれてコブができた」と泣きながらいつけにまいりました。」とあります。

4

最後の「金ちゃん」の言葉に注目します。「あんまり名前が長いから、もうコブがひっこんじまった」とあるので、長い名前を言っているうちに、時間がたつてコブがひっこんだことが理由だとわかります。指示されている言葉を使うのをわすれないようにしましょう。

1

イ

2

四十

3

① ア・ウ

② イ

! 解説

1 棒グラフが交通事故の発生件数、折れ線グラフが死者数のグラフです。Aには、発生件数がいちばん多い時期が入るので、棒グラフを見ましょう。

2

棒グラフの数値は左側のめもりで見ます。二〇一九年から二〇二二年の交通事故発生件数は、四十万を下回っていることがわかります。

3

Cには、一九九〇年から一九九五年の死者数が入ります。死者数を表す折れ線グラフの数値は右側のめもりで見ます。特に指定がないので、数字で答えても正解です。

4

田中さんの発言に注目しましょう。信号や道路標識の整備、取りしまりの強化は、車の運転手に安全運転をうながす効果があります。シートベルト着用の義務化は、事故にあったときに大げがをするのを防ぐ効果があります。

1 発端・無縁

2 A 感情

B 論理

3 ② イ

③ ア

④ ア

5 ⑤ 例感情と論理の両方を意識する必要があるということです。



解説

1 ① —の後に注目しましょう。私たちの言動は「感情が発端」である一方、「論理的な思考とまったく無縁な言動」というものも考えにくい」と述べられています。

2

A・B をふくむ文は、図1を説明しています。Aは「核」で、Bは周りをおおっているものと説明されています。

3

② 「学問的な議論」の場合は、「論理のレイヤが要素の大半を占める」
③ 「恋人同士のコミュニケーション」の場合は、「感情のレイヤが大きな部分を占める」と説明されています。図を見て、当てはまるほうを選びましょう。

4

「論理的に完全」でも「感情的に拒絶される」場合の逆です。

5

私たちの言動には、感情的な要素と論理的な要素があるということとを、図を用いて説明して、最後の段落で、「コミュニケーションにおいて、必要なことが説明されています。」

1 キ

2 エラーコード

3 ④

例電源ボタンを長押しして、再起動

4 ク

⑤ エ

6 ⑥ 例カスタマーセンターに問い合わせる。



解説

1 「どうしたらよいか分からない」状態で、困っているので、「困ったときは…」を見ればよいことが分かります。

2

直前のともきさんの発言を受けているので、「それは「エラーコード」のことを指しています。」

3

エラーコード「BB」が出たので、「ゲーム機のホームページ2」の「エラーコード「BB」」のところを見ましょう。

4

「なるべくこれわれないように使う」方法が知りたいので、どのように使うとこれわれやすくなるのかを説明したページを見るとよいと考えられます。

5

エラーコード「AA」には、インターネットに接続し直すことが書かれています。

6

データがこわれた可能性がある場合は、エラーコード「DD」が表示されることが「ゲーム機のホームページ2」で分かります。

1 大量の水・輸入

2 ア

3 イ

4 例 残飯の排出量を現在の半分にし、その分の輸入を減らすこと。

5 例 必要なものを必要な分だけ買って、食べ切ること、残飯を減らすこと。



解説

1 大量の水が使われて育てられた穀物や野菜、家畜を輸入している
ので、大量の水を輸入しているということもできるといふことだ。

2 ②の直後に、「その量は、年間約一九〇万トンです」と書か
れています。グラフから、一九〇万トンにいちばん近いものを
選びましょう。

3 「約三分の一を捨てて」いる例を選びましょう。

4 ③の前に注目しましょう。残飯として捨てることになる分の
食料の輸入をやめれば、輸入したくてもできない国が輸入しやす
い状況を作ることができるかもしれません。

5 買い物の仕方や食料の使い方など、あなたが家や学校で取り組め
ることを考えて書きましょう。

1 とり肉

2 ア

3 増えて

4 いちばん多い



解説

1 「日本の肉類の消費量」のグラフを見ましょう。いちばん右が二〇
二〇年の数値です。最も多く消費されているのはとり肉だとい
ふことが分かります。

2 Aには、牛肉の消費量についての数値が入ります。牛肉はい
ちばん左の一九九五年からいちばん右の二〇二〇年まで、ずっと
五十万トンと百万トンの間で推移しています。

3 一九九五年では百五十万トン未満だったぶた肉・とり肉の消費量が、
二〇二〇年では百五十万トンをこえています。消費量がだんだん
増えていることが分かります。

4 「一人一日あたりの肉と魚の消費量」のグラフの中の五か国のうち、
日本の魚の消費量は最も多くなっています。「最も多い」を表す言
葉を文章の中からさがしましょう。

5 「日本の肉類の消費量」のグラフから、ぶた肉ととり肉の消費量が
増えて、牛肉の消費量があまり変わっていないので、全体として
肉の消費量が増えていることが分かります。また、「一人一日あた
りの肉と魚の消費量」のグラフから、日本の肉の消費量は、グラ
フの中の五か国でいちばん少ないことが分かります。

49

論理的な文章

複数の資料の読み取り

練習

106・107ページ

5 ア
4 ア
3 春 イ 夏 ウ
2 最も多い月：八月 最も少ない月：二月
1 ウ

! 解説

1 台風が「七〜九月に多く発生」していて、数は少ないけれど、「一〜四月にも発生している」とあります。グラフからも、発生数が「0」の月はないことから、台風が一年中発生していることがわかります。グラフから発生数を表す棒に注目しましょう。「8月」「2月」と数字を用いて答えても、正解です。

3 春・夏・秋の台風の動きについて、文章で確認しましょう。春の台風は、「赤道あたりで発生」「フィリピンやベトナムに向かいます」、夏の台風は「高緯度」で発生し、「北にも向かいます」、秋の台風は「日本列島」までくると、「東のほうへ向きを変えます」と説明されています。

4 文章に「日本への上陸数は九月も八月も同じくらい」とあります。文章に「台風の発生位置やその後の動きは季節によって変わってきます」と述べられています。

50

論理的な文章

複数の資料の読み取り

練習

108・109ページ

5 D
4 例 八月の気温ならある程度暑いことは予想できるのではないか。
3 ア
2 30・快晴
1 B・C・F
6 イ

! 解説

2 「あんな日」とは、「××国際マラソン大会」が行われた日のことを指しています。どのような日だったか、記事で確かめましょう。

3 Fさんが「ずずしい春や秋に、開催時期を変更したほうがいい」と述べています。

4 ②——の意見から、「本当にそうだろうか」と思う部分をさがして、反論してみましょう。

5 Dさんの、昔は夏に走り回っても熱中症にならなかったという言葉に、③——というところで、昔よりも気温が上がって、熱中症の危険性が高くなっていることを伝えようとしています。

6 Eさんが本当に病院に勤めているのかはわかりません。また、開催時期を変更したほうがいいという意見は出ていますが、正しいかどうかは、このやり取りだけでは判断できません。

29

1 A ア B ウ

2 島国・独自の進化

3 陸続き・海・進めなかった

4 例 南西諸島は湿潤で、田んぼ以外の湿地がたくさんあるから。

5 田んぼ

6 例 田んぼが減り、耕作放棄地が増えたことで、カエルが卵を産む場所が減ったこと。

7 例 田んぼの代わりに、カエルが卵を産める場所を作るなど、対策が必要だと思った。



解説

1 A 直前の部分で、世界に約五千種のカエルがいることが述べられ、直後には、実際にはもっと多くの種類がいるということが述べられています。直前の内容に反することが述べられているので、Aには「しかし」が入ります。

B 直前では、南西諸島において、田んぼに産卵するカエルが四種類しかいないことが述べられ、直後では、この四種類のカエルも産卵に田んぼが必ずしも必要わけではないことが述べられています。前に述べられていることと後に述べられていることが、対等にならないので、Bには「また」が入ります。

2

①——と同じ段落に注目しましょう。「これは日本が島国で大陸とは離れているために、日本国内でカエルたちの独自の進化があったことを示しています」と述べられています。

3

②——の次の段落に「この理由は」とあることに注目しましょう。
②——を受けて、「この理由」と述べているので、この段落に理由が書かれています。

4

③——の次の文の文末が「〜からだと考えられます」となっていることに注目しましょう。③——の理由が書かれています。

5

この表について、文章では「この表から田んぼを産卵場所に利用するカエルが多いことがわかります」と述べられています。

6

④は「◎」が最も多いので、「田んぼ」が入ることがわかります。
資料から、田んぼが減っていること、耕作放棄地が増えていることがわかります。カエルは田んぼなどの湿地に産卵をするため、田んぼが減り、耕作放棄地が増えたことで、カエルの産卵場所がなくなつたために、カエルが減っているのだと考えられます。

7

文章の内容や、資料から分かることなどをもとに、あなたが考えたことを自由に書きましょう。

1 嬉しく・得意

2 昼休みには全員、遊びにでる

3 イ

4 ア

5 例 弱虫の内田久義に呆れ、軽蔑するような気持ち。

6 ウ

7 例 内田久義に味方するつもりで駆けつけたが、迷惑がるような言葉を言われ、呆れて腹が立つ気持ちに変わった。

！ 解説

① —の後の部分から、チヅルの、内田久義に対する気持ちが分かる言葉を見つけてみましょう。

② 「三組」がどんな組かについては、② —のすぐあとのまとまりで説明されています。そこから、ひとりりで運動場に出ている内田久義を、チヅルが、「三組の子かもしれない」と思った理由を読み取ってみましょう。

③ —の前後に注目しましょう。前の心の中の言葉から、チヅルは、コバヤシに何か言われた内田久義が困った様子なのを見て、コバヤシが「掃除をおっつけてる」と思ったことが分かります。また、あとの部分に、チヅルが三年生のころ、コバヤシが人に掃除をお

しつけようとする「現場をみつけるたび」に、「飛んでいって」牽制していたとあるので、ここでも、チヅルは、コバヤシに掃除をおしつけられそうになっている内田久義を助けようとしたと読み取れます。

④ —の直前に、「女子や気のよわい男子に感謝されて、感謝されるのがいい気分だから」と理由が示されています。

⑤ —の後の「転校生だとすると、」で始まる部分で、内田久義の⑤ —の言葉を聞いて、チヅルが思ったことが書かれています。

⑥ チヅルに助けってもらったあとの内田久義の言葉や様子に注目しましょう。「あとで小林クンの仲間に、からかわれないかなア。ヨソの組の女子に、助けってもらったって」と言い、「困ったなア」と呟いています。

⑦ ⑦ —の後の部分から、チヅルの気持ちがどう変わったのかをとらえましょう。チヅルは、内田久義がコバヤシから掃除をおしつけられるのを助けようと、内田久義の味方のもりで駆けつけたのですが、内田久義が、「助けたのを迷惑がるようなセリフ」を言ったため、「世界がひっくり返るほど呆れかえり、すぐには息もできないほど」になったのです。

①

(1) 作ったり・仕入れたり・値段

②

(2) 違いを作り出した対価

③

A 七〇 B 三〇〇

④

(1) しじょう

⑤

(2) 「いちば」は、じっさいの売り買いが目で見

⑥

える場所のことで、「しじょう」は、目に見えない

⑦

ものもふくめて売り買いが行われる場所のこと。

⑧

【例】映画館は、家のテレビにはない大きな画面で映画

⑨

を流すという日常生活との違いを作り出して、映画

⑩

チケットとして、おもしろさを売っているといえる。

⑪

(69字)



解説

①

(1) 最初の二つの段落で、「お金を稼ぐ」ことの基本的なことが説

明されています。お金を稼ぐにはなにかを売らなければならな

いこと、なにかを売るには、相手が欲しいと思うものを作ったり、

どこから仕入れてきたりしなければならぬこと、売るため

にかけた費用と売った値段の差が儲け(利益)になることをおさ

えましょう。

(2) 最初の段落で、「お金を稼ぐ」ためには「なにかの対価としてお金を払ってもらう」ことが必要だと述べられていることをおさえる、儲けとは「対価」だと分かります。この言葉に注目して文章を見ると、第五段落の後半で「違いを作り出した対価」とあります。

32

②

②——の例が第四段落で述べられています。小麦粉でおいしいパンを作ったり、特別な香りのする紅茶を外国から仕入れたりする、つまり、相手がなかなか手に入れないものを用意することで、違いを作り出せることが分かります。

③

Aのパンの例では、三〇円分の小麦粉で作ったパンが一〇〇円で売れるので、七〇円の儲けです。Bの紅茶の例では、二〇〇円で買った紅茶が五〇〇円で売れるので三〇〇円の儲けです。それぞれ「七十」「七十」「三百」「三百」と書いても正解です。

④

(1) ③——は、インターネットという目に見えない場所での売買なので「しじょう」と読みます。

(2) 魚市場やお店、ショッピングモールを「いちば」と呼び、商品取引所などを「しじょう」と呼んでいます。

⑤

第七段落で、「資本主義のしくみにもとづいてモノを売ったり買ったりすることを『市場交換』とも呼びます」と述べられています。

⑥

目に見えないもので売り買いされているものには、たとえば、サービスがあります。サービスは体験を売っているともいえます。あなたの身の回りにどのようなサービスがあるか、考えてみましょう。